

鳥坂寺跡保存活用基本構想等策定委員会 会議録

◆第2回会議（2011年9月22日）

時間…15：00～16：30 会議

場所…歴史資料館3階 研修室

1. 開議

○前回の会議録の承認

2. 平成21・22年度の鳥坂寺跡の発掘調査成果について

【文化財課 調査担当者から説明】

【説明に対する質疑】（○…委員からの質疑、△…事務局の回答）

○鳥坂寺は鳥取氏が建立したとは言えないのか。また智識寺と比べて、鳥坂寺の価値はどのようにいえるのか。

△考古学的に、鳥取氏が建立したとは断定できない。塔跡に鳥取氏の氏祖を祀る天湯川田神社があることから、寺院創建に関わっていた可能性は高いが、実際にどのように関わっていたのかは意見が分かれる。智識寺との違いは、やはり発掘調査で建物の配置などが明確に把握できている点が大きく異なり、そこに鳥坂寺の意義がある。

委員長：また名前のわからない寺院が多い中、『鳥坂寺』と書いてある土器が見つかっており、寺の名前がはっきりと分かっている点も大きい。

○金堂南側にある盛土について、石のある層と石のない層があるがどういった理由が考えられるか。

△古墳等でみられる版築のように、異なる土を使って盛土をすることで、土が流れにくくしている可能性がある。そうすることで、金堂南側の斜面を埋め、平坦地を造っていると考えている。

○保存するにしろ活用するにしろ、そのための資金がどれくらいあるのかで、方針が決まる。現在ある個人所有の葡萄畑についてはどのように考えているのか。

△用地購入、史跡整備の予算については、国からの補助金を含めて現在検討中であるが、この委員会での検討課題から少々外れるので、発言は差し控えたい。また史跡の範囲内の葡萄畑は公有化の可能性もあるが、現状保存であれば、土地購入の必要はない。ただその場合、活用ができない。単に保存するのか、活用する方向でいくのか、その点をこの委員会でご検討いただきたい。

3. 遺跡整備事例紹介

【シードコンサルタントから説明】

補足となるが、史跡の整備にあたって、その維持・管理には地元の協力が必要である。

地元の協力があつてこそ、史跡の集客力を高めていけると考えている。

【説明に対する質疑】（○…委員からの質疑、△…シードコンサルタントの回答）

○史跡の整備にあたって植物を植えている例があつたが、根などが下の遺構に影響を及ぼさないのか。

△地表からは数十 cm は保護層という形で盛土がされており、その保護層のなかで根が張っている。

4. 質疑・意見等（○…委員からの質疑・意見、△…事務局の回答）

○金堂を復元する場合、礎石の位置は復元できるのか。

△現地表で、金堂基壇の一部が露出している箇所もあるので、盛土は必ず必要となる。

金堂の礎石については原位置を保っているものはないものの、考古学・古代建築学のこれまでの研究成果により、かなりの精度で礎石の位置を復元することはできると考えている。

○基壇などを実際に見えるようにして、遺構上に覆屋をつくり、サンヒル前の道など上から眺めるような形が良いのではないか。その際、基壇をコーティングして風化しないようにはできないか。

△基壇は凝灰岩という脆い石材であり、カビや苔などの対策も含めて、実際に見えるようにするには、樹脂などでコーティングする必要がある。しかし、どういった手法、薬剤が最も良いのか確立されていないのが現状で、基壇そのものを露出させるのは難しい。

○河内国分寺のように、盛土をしてその上に基壇を復元するのが最も良いのではないか。その場合、下の遺構に影響がないよう柱を建て、実際の建物規模が目で見分けるようにしてほしい。

○基壇を覆う表土を取り去って、露出するようにすると、どうしても遺構の破壊につながってしまう。土が被さっているのと同じような、透明な樹脂を流し込むなど、新しい建築素材も検討してほしい。

○塔跡のある神社境内については、何か手を加えるということは可能なのか。

△神社については現状のままとなり、説明板の設置などに限定されてしまう。金堂などの具体的な復元方法については、保存技術の専門家による実施計画の段階で議論される内容になるが、遺構上に土を盛り、復元あるいは疑似保存をするというのが、現実的な

保存方法になるとみられる。

○中央である奈良の寺院と比べて、鳥坂寺はどのように位置付けられるのか。

△単純に地方寺院＝地方豪族の氏寺というこれまでの歴史観では、寺院の密集する柏原市、あるいは河内六寺について説明しきれない側面があり、その歴史観を見直す動きがある。開発などにより失われてしまった寺院が多い中、地方寺院の在り方を考える上で、その実態が分かる鳥坂寺を保存する意義は非常に大きい。鳥坂寺の創建には、仏教に帰依した集団である智識も関わっていた可能性があり、具体的にどのような活動を行っていたのかを探る上でも鳥坂寺は重要な寺院といえる。

○鳥坂寺のようなあれだけの寺院を、なぜ建てたのかという点について考えられるような学習の場として活用できないか。

○なぜ鳥坂寺を保存するのかをアピールするために、鳥坂寺が河内に限らず日本の古代社会の中で、どのような重要性を持つのかを深めていく必要がある。

5. 次回委員会開催日時について

事務局：次回は会議に替えて、史跡整備の実例ということで泉南市の史跡海会寺跡の見学を行う。日時は10月27日(木曜日)、午後0時30分～午後4時30分まで、フローラルセンター前に集合とする。後日、改めて文書で各委員に通知する。

6. 閉議